

はくぼく

No216 2014-12-22(月)

責任者 三浦真吾

事務局 吉田朝夫

釧路市美原3丁目57-4 TEL36-7426

釧路九条の会主催「釧路平和の集い」 野球を奪われた青春

三宅信一さん

先日の七日(日)、釧路九条の会主催の「釧路平和の集い」をまなぼつとで開催しました。講師に、元釧路大教授の三宅信一先生、「野球を奪われた青春」と題して、翌日の十二月八日は、一九四一年十二月八日未明、日本がハワイの真珠湾を攻撃し、米英に対して宣戦布告して、太平洋戦争に突入した日です。(実は八日に集い行なう予定でしたが、会場の都合で、七日になりました。)朝鮮生まれで朝鮮育ちの三宅先生に、植民地だった朝鮮で過ごした時代に想いを寄せ、熱く語っていただきました。先生は、一九二六年の二月十一日に朝鮮京城府生まれで、一九三二年の四月に小学校に入学。当時の戦局は、前年の一九三二年九月十八日に満州事変が勃発。翌年の一九三三年三月二十七日には、日本が国際連盟を脱退。一九三七年七月七日には、盧溝橋で日中が衝突して日中戦争が始まるという、戦況ただならぬ状況の中で、一九三八年四月に京城師範学校に入学。そこで野球部に入る。三年でレギュラー(二塁手) 青春真つ只中で、野球にのめりこみ、夢中になって野球少年として過ごしていたが、一九四一年の三月に突然、野球部解散となる。破れたボールの修理や、豚皮のスバイクの修理から開放されたが、「明日」が見えない。

正に(奪われた青春)そのものだった。《敵国語》排除の風潮が流布し、ストライクが「よし」ボールが「だめ」となる。そんな中で、「ラグビー」だけは、なぜか行なわれており、ラグビー部にひろわれ、FW4番(ロック)を守備。この年の十二月に真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争が始まる。この日から一九四五年八月十五日までの四年間は、戦時一色の時代「欲しがりません勝までは」「撃ちてしまえ」の戦局標語が流布し、戦意高揚の時代となる。一九四五年二月徴兵検査で甲種合格となる。 学校生活の中で軍時教練に明け暮れ、徹底訓練でしごかれたので、陸軍には入りたくなかった。海軍予備生徒を志願し合格となる。三月一〇日、東京空襲。三月末、京城から朝鮮海峡を渡り、千葉県館山へ。四月に横須賀海軍砲術学校館山分校に入学。「貴様ら！何しに来た！」と怒鳴られる。七月十八日、横須賀空襲。学生隊は防空壕から這い出して、死体の消却作業に当たった。七月下旬、辻堂海岸(相模湾)へ。コロネット作戦(米軍艦隊の日本本土占領作戦)を迎撃する陣地の構築と訓練(水際作戦)に終始する。「本土決戦」は幻想だった！。八月十五日、江ノ島の見える海岸線の松林で、「敗戦」のラジオ放送を聞く。九月、復員。横須賀↓下松↓下関(朝鮮海峡)↓釜山↓京城の自宅に帰宅。二〇月、占領軍司令官命令(軍人とその家族は即刻日本に帰れ)とのことで倉敷に引揚げる。現在八七才、独特の語り口は老いを感じさせない元気そのもので、二時間近い時間が足りないほどの熱弁で、聞く方も引き込まれ、時間の経つのも忘れ、まだまだ語りた、聞きたい思いでした。

第一〇四回釧路民教釧路市集会のご案内

「はくぼく」No.215でもお知らせしましたが、釧路民教集会在次の日程で開催されます。
今回は、釧路市が当番で、場所が山花のリフレです。 温泉に入りながら、日帰りで参加してみませんか。是非、お勧めします。

- ・ 期 日 二〇一五年二月一〇・十一日(土・日)
- ・ 場 所 釧路市山花温泉リフレ
- ・ 演 題 「矢日別のたたかい五〇年」
- ・ 講 師 矢日別平和委員会事務局長 吉野 宣 和氏
- ・ 参加費 ・ 教職員 2500円 ・ 一般 500円

先月号に開催要項を同封しましたが、一日目の午前中の講座は「はじめてスキーをする子、どう教える」になっていて、会場は、阿寒湖のロイヤルバレースキー場ですので、お間違いないお出かけ下さい。

良い年をお迎え下さい。

先月の「はくぼく」でお知らせしました署名集約の後に、お二人から二〇筆の署名が届きました。道処理しようかと思ひ、釧路全教組に尋ねましたら、まだ受け付けるとのこと、届ける事にしました。それで今年の最終集約は、次の集約数となります。

・ 集約総数 500筆です。

「集团的自衛権反対」の署名 ただ今30筆です。

集まりましたら、是非、事務局まで送って下さい。今回の選挙で自民党大勝。衆議院議席三分の二となり、安倍首相は強気になって、諸々の悪法を通そうと虎視眈々です。その一つの「集团的自衛権反対」の署名は、私たち元教師は「教え子を再び戦場に送るな」の願いで闘った者たちとして、放つては置けません。まだ間に合います。がんばって取り組んで下さい。

もう一つあります。

「二万人アピール」です

これも同じ取り組みのものです。

お手元の用紙に記入し、ファックスで送ればよいのです。自分一人のことでもいいのです。道教組に問い合わせ

せましたら、全体でまだ240筆とのことで、釧路支部からは

現在19筆届いているとのことです。

「平和の申し子たちへ! 泣きながら抵抗を始めよう」 なかにし礼

二〇一四年七月一日火曜日

集団的自衛権が閣議決定された

この日日本の誇るべき

たった一つの宝物

平和憲法は粉碎された

つまり君たち若者もまた

圧殺されたのである

こんな憲法違反にたいして

最高裁はなんの文句も言わない

かくして君たちの日本は、

その長い歴史の中の

どんな禍々(まかまか)しい

そしてあの

醜悪と愚劣 残酷と恐怖の

戦争が始まるだろう

ああ、若き友たちよ

巨大な歯車がひとたびぐらっと

回りはじめたら最後

君もその中に巻き込まれる

いやがおうでも巻き込まれる

しかし君に戦う理由などあるのか

国のため? 大義のため?

そんなもののために

君は銃で人を狙えるのか

君は銃剣で人を刺せるのか

君は人々の上に爆弾を落とせるのか

若き友たちよ!

君は戦場に行つてはならない

なぜなら君は戦争にむいてないからだ

世界史上類例のない

六十九年間も平和がつづいた

理想の国に生まれたんだもの

平和しか知らないんだ

平和の申し子なんだ

平和こそ君の故郷であり

生活であり存在理由なんだ

平和ぼけ? なんとも言わしておけ

戦争なんか真つ平ごめんだ

人殺しどころか喧嘩もしたくない

たとえ国家といえども

俺の人生にかまわないでくれ

俺は臆病なんだ

俺は弱虫なんだ

卑怯者? そうかもしれない

しかし俺は平和が好きなんだ

その「い」が悪い?

弱くあることも

勇気のあることなんだぜ

そついつと胸をはれば

なにか清々しい風が吹くじゃないか
怖れるものはなにもない

愛する平和の申し子たちよ

この世に生まれ出た時

君は命の歓喜の産声をあげた

君の命より大切なものはない

生き抜かなければならない

死んではならない

が 殺してもいけない

だから今こそ!

もつともか弱きものとして

産声を上げる赤児のように

泣きながら抵抗を始めよう

泣きながら抵抗しつづけるのだ

泣くことを一生やめてはならない

平和のために!

この詩は、二〜三週間前の道新に載ったなかにし礼氏の作品です。「集団的自衛権」の閣議決定に対して、この法案の意味するものを、若者たちに呼びかけながら、若ものたち世代に向けてのメッセージで、共感するものを感じたので掲載しました。既にお読みなつておられると思いますが、もう一度、読んでみて下さい。何となく味のある詩だと思います。

春の空

深見

迪さん

朝五時十五分

東の空がもう燃えています

誰が何と言つても春に向かつているのです

朝の配達の三〇分のすがすがしさ

半分は道路を 半分は空を見て走ります

消費税の秒読みが始まりました

ぼくたちは右往左往しています

でも東の朝の燃えている空を見ると

右往左往の中にも

どつしりとした歴史の回転を感じます

ああ、開け始めた空はこうして毎日

勇気になつてぼくたちに届いてくるのですね

2014年3月18日

▼会費納入のお願い

今年も残りわずか、あと八日です。

育のせいは何じやない...といます。会費未納の方

早めに会費を納入下さい。年の暮、何かと物入り

で年々暮らして行くのは、懐がくつてもなにか

と思えますが、払ひものは払ひます。さあ、

持たず除夜の鐘を聞きませんか。お待ちして

ます。YMNJ♪